

# 交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

## 第6回 モーモースクールから広がる可能性

# 農高進学を勧める助言で “校長室登校”から教室に行くように

地域交流牧場全国連絡会関東ブロック(埼玉県秩父郡小鹿野町 吉田牧場) **吉田 恭寛**

私の牧場は埼玉県秩父郡小鹿野町にあり、約120頭(うち搾乳牛70頭)を飼養しています。地域交流牧場全国連絡会(交牧連)には設立当初(1999年)から加入しており、酪農教育ファームの牧場認証も制度発足時(2001年)に取得しました。以来20年以上にわたり、近隣の学校の体験学習を受け入れています。また酪農教育ファームファシリテーターとして学校などで出前授業を行っています。

### 子どもたちからの質問が 学びや気付きになることも

昨年、東京都内の公立小学校で「ヴィーガン(完全菜食主義者)給食」の提供が実施されたというニュースがありました。この小学校では月に一度、幅広いアレルギー原因物質に対応した「エブリワン給食」を提供し、全児童が同じものを食べるという取り組み



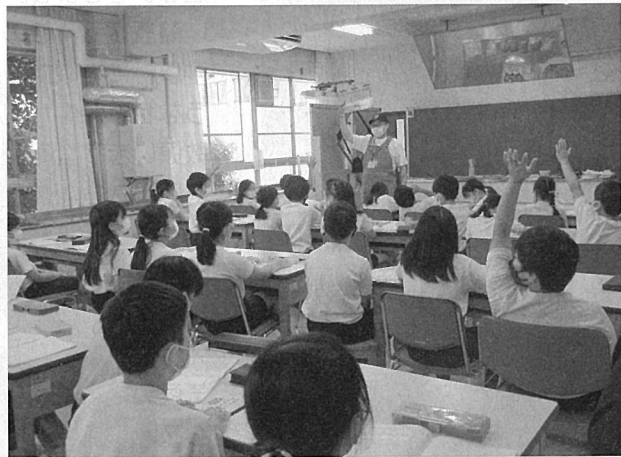
都内で2年振りに開催した「わくわくモーモースクール」

を行っています。ヴィーガン給食もこれの一環だそうです。

当日は、豚肉を大豆ミートに、カツオだしを昆布だしに、牛乳をリンゴジュースに代えた給食が出されたようです。子どもたちを取り巻く生活環境が大きく変わり、給食など食事の在り方も栄養価だけで考える時代ではなくなっているのかもしれない。

それでも全国的には給食に牛乳が出ることは当たり前で、多くの子どもたちが牛乳をおいしく飲んでくれています。

交牧連の活動には、各会員で牧場体験を受け入れたり、アイスクリームなど自慢の乳製品を販売したりすることなどによって、消費者に酪農と牛乳・乳製品の素晴らしさを知ってもらうという役割があります。私の牧場ではコロナ禍前は例年700~2,000人ほどを受け入れ、シーズンによってはほぼ毎日対応していました。



子どもたちに酪農の仕事について説明する吉田さん



吉田牧場では小学生や一般消費者など牧場体験を数多く受け入れてきた

消費者を受け入れるだけでなく、酪農家が牛を連れて学校を訪問する「わくわくモーモースクール」も行っています。事前に学校側と綿密に打ち合わせ、酪農家仲間や乳業関係者、応援してくれる学生たちと一緒に学校を一日だけ牧場に変え、子どもたちにさまざまな体験をしてもらいます。子どもたちは学校の校庭に現れた乳牛の大きさに驚き、そして子牛のかわいさに夢中になります。

モーモースクールで、酪農家は自分の言葉で酪農の日々の仕事について語ります。子どもたちは皆、真剣に耳を傾けてくれ、時には私たちが驚くような質問も飛び出します。実施する私たちにとっても学びや気付きのある、充実した時間となります。

### 動物好きの児童のやる気を刺激 出前授業の新たな役割実感

先日、コロナ禍で見合わせていたモーモースクールを、東京都内の東京スカイツリーの見える学校で約2年ぶりに開催しました。たくさん子どもたちと楽しい時間を過ごし、後片付けをしていると、一人の女の子が校長先生と一緒に私たちの前に現れました。校長先生によると、彼女は、登校はできても自分の教室に行くことはできず、校長室で過ごしているそう。校長室では私の牧場で生まれた一羽のウサギが飼育されていて、彼女はこのウサギの世話をするため登校しているとのこと。校長先生から私のことを聞いた彼女はウサギを大切に胸に抱いて「元気にしてるよ」と報告しに来てくれたのです。

その時、一緒にいた酪農家の一人が

彼女に声をかけました。「動物が好きなら、頑張って勉強して農業高校へ行くといいよ。東京都内にも動物の勉強ができる高校があるよ」。そんな会話をして、その日は終わりました。

後日、校長先生から少し興奮気味にお礼の連絡を頂きました。彼女がモーモースクールの翌日から「教室に行く」と言い出したというのです。理由を尋ねると、農業高校に進学するという目標を持ったようでした。さらに彼女は夏休み前にウサギの飼育当番の説明を自発的に企画し、同級生に細かい飼育方法を教えたといいます。

モーモースクールなどは、牛や牛乳のこと、牛乳が口に入るまでに関わる人たちのこと、そして毎日給食に出るのが当たり前のように思われる牛乳が実は尊いものだということが

知ってほしいという思いで続けてきた活動です。しかし今回の経験から、この活動には食育という面だけではない新たな可能性も秘めているのではないかと感じました。



吉田さんは20年以上、交牧連の活動を続ける

**牧場概要**

牧場名：吉田牧場  
 代表者名：吉田 恭寛  
 所在地：埼玉県秩父郡小鹿野町2262  
 総飼養頭数：120頭(うち搾乳牛頭数70頭)  
 年間生産乳量：500 t  
 飼養形態：放し飼い(フリーバーン)  
 飼料畑面積：なし  
 牧場スタッフ：1人(本人のみ)  
 交牧連加入年：1999年  
 主な活動：酪農教育ファーム活動、子どもたちの受け入れ、中学生や高校生の職場体験

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先  
 (一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局  
 TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295  
 メール：koubokuren@churaku.jp  
 ホームページ：https://www.dairy-farm.jp/  
 フェイスブック：https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】